

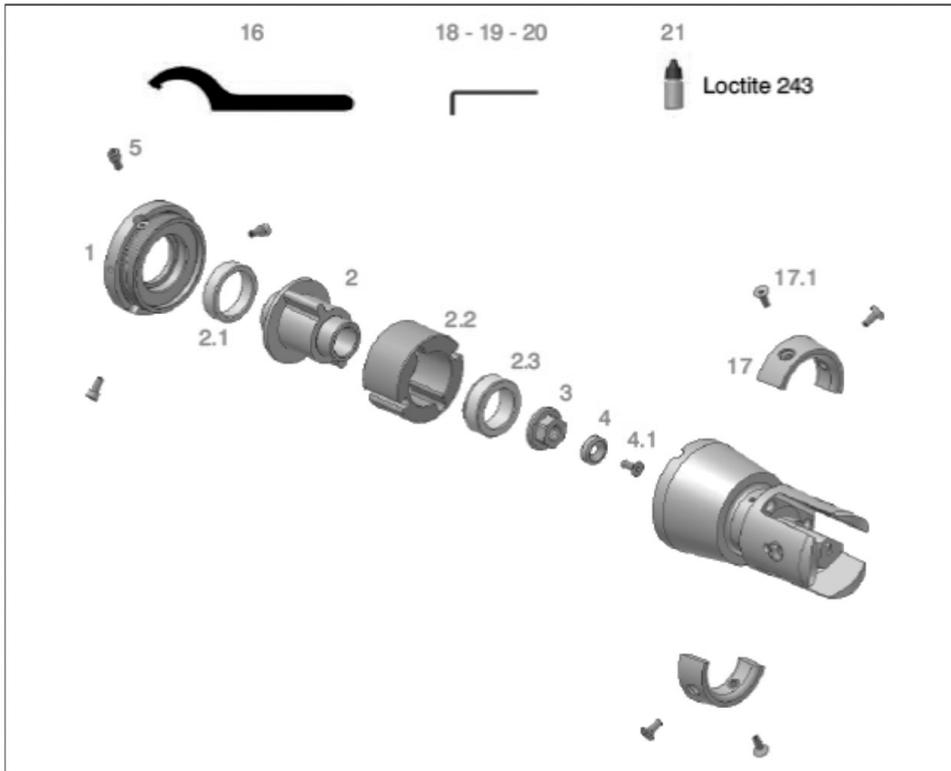


# Gori フォールディングプロペラ 取付説明書 3ブレード・セイルドライブ用

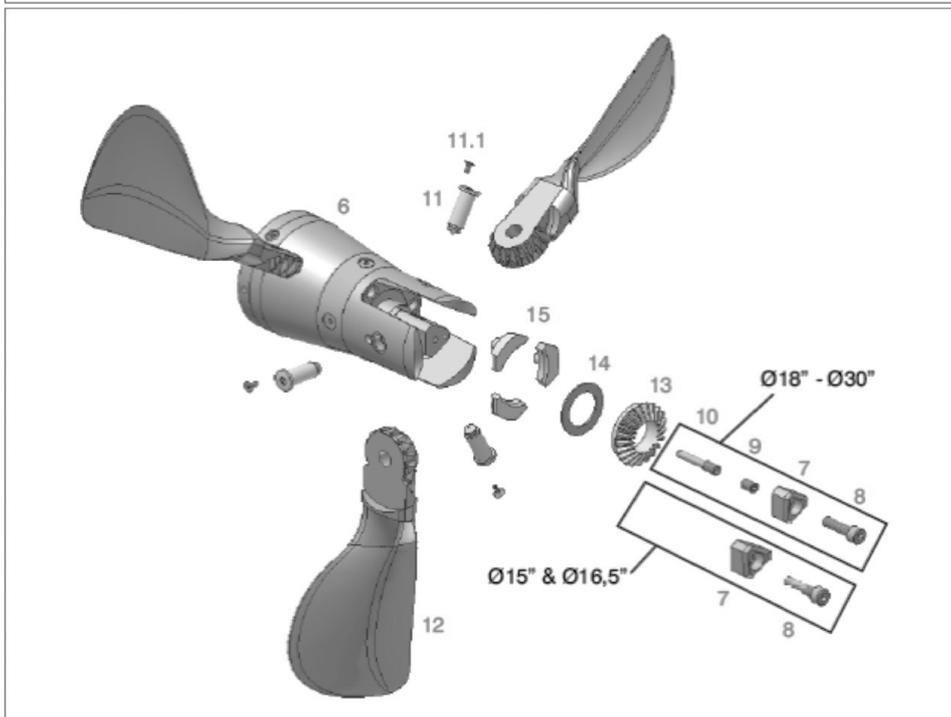
Gori プロペラをお取り扱い頂く前に必ずお読み下さい。

この度は Gori・3ブレードフォールディングプロペラ(セイルドライブ用)をお買い上げ頂き誠にありがとうございました。

## ■プロペラ分解図 (各部名称)

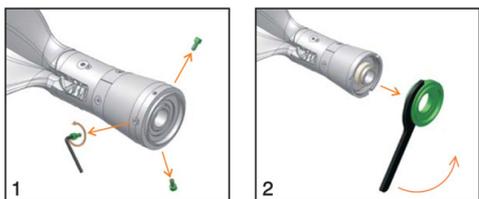


番号	部品名称	数量
1	リテイニングキャップ	1
2	インナーハブ	1
2.1	ブッシング	1
2.2	フレキシブルブッシング	1
2.3	ブッシング	1
3	ナット	1
4	ナットロック用ワッシャー	1
4.1	ナットロックボルト	1
5	リテイニングキャップ ボルト	3



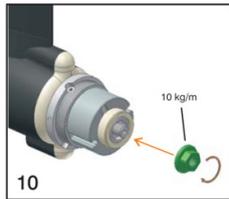
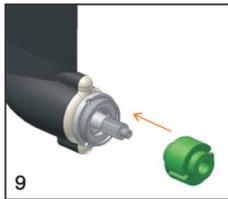
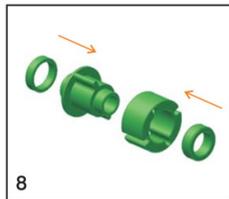
6	ブレードハウジング	1
7	ジンク・アノード	1
8	ジンク・アノード取付ボルト	1
9	スレッドピン	1
10	ピン取付ボルト	1
11	ピン	3
11.1	ピン用外部ロックボルト	3
12	プロペラブレード	3
13	ギアホイール	1
14	スペーサー	1
15	フレキシブルストップ	3
16	Cスパナ	1
17	ジンクリングアノード	2
17.1	ジンクリング取付けボルト	4
18	アレンキー4mm	1
19	アレンキー5mm	1
20	アレンキー6mm	1
21	ロックタイト	1

## ■プロペラの取付け



### ①【内部パーツの分解/取り出し】

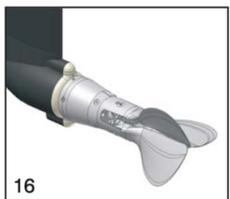
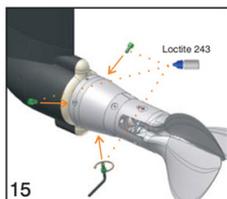
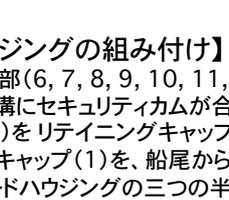
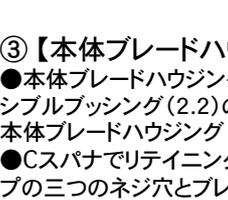
- まず プロペラ本体内部のパーツを分解、取り出します。
- 5mmアレンキーでリテイニングキャップ(1)の3本のロックボルト(5)を緩め、(1)～(5)のパーツを順に取り外します。
- Cスパナ(16)を使いリテイニングキャップ(1)を回し、ブレードハウジングから取り外します。ジャケットを回す方向は、船尾から見て時計回りです。(※ブレードハウジング及びジャケットのネジは普通ネジです。)



※ご注意: 本体ブレードハウジングは既に組立てられ、ボルトはロックタイトを用いてロックされていますので(6, 7, 8, 9, 10, 11, 11.1, 12, 13, 14, 17, 17.1)は分解する必要はありません。

### ②【内部パーツの取り付け】

- 取り出したリテイニングキャップ(1)、ブッシング(2.1)、インナーハブ(2)、フレキシブルブッシング(2.2)、ブッシング(2.3)を順にドライブシャフトへ差し入れていきます。
- あらかじめパーツを組み合わせてから差し入れると容易です。
- 次にナット(3)をしっかりと締め込み固定します。(※標準締め付けトルクは9～10kg-mです。)
- さらに緩み止めに、ナットロック用ワッシャー(4)を被せ、ナットロックボルト(4.1)にロックタイトを塗って、5mmアレンキーを使って固定して下さい。



### ③【本体ブレードハウジングの組み付け】

- 本体ブレードハウジング部(6, 7, 8, 9, 10, 11, 11.1, 12, 13, 14, 17, 17.1)を、フレキシブルブッシング(2.2)の溝にセキュリティカムが合うように差し込みます。本体ブレードハウジング(6)をリテイニングキャップ(1)に合わさるまで押し込みます。
- Cスパナでリテイニングキャップ(1)を、船尾から見て反時計回りに回し、リテイニングキャップの三つのネジ穴とブレードハウジングの三つの半円穴とが一致するまでねじ込みます。(※ブレードハウジング及びリテイニングキャップのネジは普通ネジです。)
- ロックタイト(21)を塗ったリテイニングキャップ用ロックボルト(5)を、アレンキー5mmにてしっかりと固定します。
- プロペラブレード(12)がスムーズに開閉することを確認して下さい。また開いた時、ブレード先端からハルまでのクリアランスが、少なくともプロペラ直径の10%以上あることを確認して下さい。
- ※プロペラ保護のために、防蝕亜鉛は必ず付けて下さい。

## ■プロペラの取り外し

- ブレード(12)は外さないで下さい。
- まずアレンキー5mmでリテイニングキャップ用ロックボルト(5)を緩め取り外します。
- Cスパナ(16)でリテイニングキャップ(1)を船尾から見て時計回りに回し、ブレードハウジング(6)から外します。
- フレキシブルハウジング(2.2)からブレードハウジング及びブレード(6～15)を抜き取ります。
- ナットロック用ボルト(4.1)を緩めナットロック用ワッシャー(4)と一緒に取り外します。
- ナット(3)を緩め取り外します。
- インナーハブ(2)、フレキシブルブッシング(2.2)、ブッシング(2.1, 2.3)、リテイニングキャップ(1)をシャフトから引き抜きます。

## ■ブレードハウジングからのブレード及びギアホイールの取り外し

※この取り外しは、クリーニングと点検の時だけ行って下さい。

- アレンキー5mmにてジンクアノード(7)とジンクアノード取付けボルト(8)を取り外します。
- アレンキー6mmにてスレッドピン(9)を取り外します。
- アレンキー5mmにてロックボルト(10)を取り外します。
- アレンキー4mmにてピン用外部ロックボルトを取り外します。
- アレンキー6mmにてブレードピン(11)とブレード(12)を取り外します。
- ギアホイール(13)を取り外します。
- スペーサー(14)を取り外します。
- プライヤー等でフレキシブルストップ(15)を取り外します。

## ■再組み立て時の注意

※各パーツの再組み立ての時重要なことは;

ジンクアノード取付けボルト(8)、スレッドピン(9)、ピン取付けボルト(10)、ピン(11)、ピン用外部ロックボルト(11.1)に必ずロックタイトを塗ってねじ込むことです。

また、ブレードハウジング(6)、ピン(11)、プロペラブレード(12)にはナンバーリングされ、ブレードハウジングとピンはラインがマークされ、再組み立てのとき、全てお互いが合うよう工夫されています。

## ■その他の注意事項

- もしジンクアノード(7)やジンクリングアノード(17)が侵蝕されその50%以上が減った場合は、新しいジンクアノードに交換して下さい。
- もしギアホイール(13)が損傷、摩耗した場合、新しいギアホイールに交換して下さい。
- もしフレキシブルストップ(15)が損傷、摩耗した場合、必ず新しいフレキシブルストップに交換して下さい。

## ※警告

- 船が水に入っていない時、エンジンをスタートさせないで下さい。
- プロペラには鋭利な部分があります。指等を切らないよう丈夫な手袋をする等、取扱いには十分注意して下さい。
- 指などが挟まれることがありますので、プロペラの羽根が突然開いたり、閉じたりしないようにして作業して下さい。
- 船が水に入るまでプロペラとプロペラシャフトを回さないで下さい。
- 船のそばで泳いだりダイビングをする場合は必ずエンジンを止めて下さい。
- プロペラの羽根はナイフのようなものです。回っている時は大変危険です。十分な注意をして下さい。
- プロペラが回っている時に、からんだ漁網やロープ等を取り除く作業は大変危険です。絶対しないで下さい。
- 出航前に、前進及び後進の両方ともプロペラが正しく機能するかを確認して下さい。
- もしプロペラから異常音や異常振動があった場合、ただちにエンジンを止め原因を取り除いて下さい。

## ■3ブレード・フォールディングプロペラの作動

ゴリ・3ブレード・フォールディングプロペラは「オーバードライブ」状態の時、より低いエンジン回転数で同じスピードが得られるようにデザインされています。

●「オーバードライブ」状態では、オーバーロードとなりますので、エンジンの回転を最大限まで上げないで下さい。

●オーバードライブ機能は、凧ぎの状態での機走と機帆走の時のみご使用下さい。

※ゴリは、エンジンのオーバーロードに起因して生じた損傷の責任は負いません。エンジンの負荷について疑問がある場合は、権威あるエンジンサービスマンとゴリへ連絡して下さい。

### □セーリング時

セーリング時はプロペラのブレードは常に閉じていますが、プロペラが回転しないようにエンジンのシフトレバーを後進位置に入れておくことが重要です。プロペラシャフトをロックし、プロペラが不要に開くことを防ぐためです。

### □前進の場合

後進にシフトするまでプロペラは常に前進状態で開いています。

「オーバードライブ」から通常の前進状態へシフトする場合は、シフトレバーを一旦中立にし船のスピードが1ノット位に落ちてプロペラが閉じてから、再度シフトレバーを前進に入れて下さい。

ハーバー内での取り回しの際、プロペラが「オーバードライブ」状態になっている場合があります。ハーバーを出る前にプロペラが望むポジションになっているかどうか、エンジンの回転数を見ながらいつも確認して下さい。

### □後進の場合

後進状態のプロペラの羽根は、前進状態の羽根の位置に大して180度振れた位置になるため、後進でも同じエッジと形状の羽根で水をかき、非常に効率的です。

しばらく船をつかっっていなかった時、ブレードのギア部とギアホイールの汚れを落とすため、シフトを前進・後進に数回慎重に入れ、ギア部分をクリーニングして下さい。

### □前進オーバードライブ時

前進「オーバードライブ」状態にするためには、船を一度後進させ、プロペラの羽根を後進状態に保ったまま、シフトを前進に入れて下さい。

船が前進しているときは、前進からオーバードライブへの急激なシフトレバー操作はしないで下さい。

※出港前にプロペラが前進・後進の両方とも働くかどうか確認して下さい。